



グループリビングミニシンポジウム

高齢化に伴い、様々な施設やサービスが私達の周りにも数多く存在していますが、特別な不安もなく健康に暮らしていると、「必要な時が来たら良さそうな所を紹介してもらえばいい・・・」程度に考えている人も多いのではないのでしょうか。

しかし今回、主体性を持って自立した生活をしながら安心して暮らす形として、「グループリビング」という選択をしている事例を学ぶ機会がありましたのでご紹介します。



グループリビングミニシンポジウム

まず、グループリビングって何？ということですが、『シニア版のシェアハウス』と例えるのが最も近いようです。

その運営に当たる「グループリビング運営協議会」主催、共催「(一社)優良中古住宅流通推進協議会」、そして今回静岡県で初のグループリビングが開設される焼津市の後援も受け、神奈川県でグループリビングの運営にも携わっておられる慶応大学名誉教授・大江守之先生の司会進行により、ミニシンポジウムが開催されました。

今元気だからこそ、いつまでも自分らしく元気に生活して行くためには何が必要か・・・。健康的な食事や運動に支えられた身体はもちろん、心も健康であるためには、安心できる暮らし、人とのつながりが感じら

れる生活、生きがいを持つこと・・・

それらを実現する形として全国各地で実践されている「グループリビング」の実例が紹介されました。



グループリビングミニシンポジウム

北は北海道登別市から、山形、埼玉、神奈川など、各地の運営者の方が足を運び、立ち上げ時の様子から現在の変化した状況への対応など、いろいろお話しくださいました。

どこも介護される事を目的とした施設ではなく、自立した生活者であることが入居の基本です。ただ、それは依存しないという意味の自立ではなく、自己決定・自己選択のできる自立した人、という捉え方で、生活の場でそれぞれの役割を持つことができるのであれば、必要に応じて介護サービスを取捨選択できます。

各部屋にミニキッチンが付いているところも多く、食事の提供は夕食だけのところも。一日1回は住人が顔を合わせて食事しましょう、等の緩やかなルールは設けられていても、外出や旅行など生活時間は全く自由。共有スペースを利用した趣味のメニューや地域の住民と共に過ごすイベントなど、それぞれの場所で欲しいと思う事を取り入れ、生活を組み立てていきます。そんな中でお互いを見守りあう支えあいも自然に醸成されます。

運営の形としては ①居住者主体 ② 土地所有者主体 ③ 介護サービス事業者主体 の3つがあるそうです。

今回の参加者は地元の人たちだけと思っていましたが、愛知県でこの運営を計画している方たちも3名参加されていることに驚きながら、中高年以降の暮らし方に新しいものを求めている人は多いと実感しました。

私も行政の推し進める地域の居場所作り等に少しばかり関わらせて貰ってはいますが、特に独り暮らしになった時、週に何度か通う場があったとしても、そこにいつまで行けるのか、又一人で過ごす時間の不安や毎日の食事の偏り等、欲しい安心をどう手に入れるかを考えずにはいられません。そういう意味で、このグループリビングという形態が広まることによって解決できる問題が幾つもありそうに思えました。



[グループリビングミニシンポジウム](#)
【焼津市のグループリビング立ち上げに関わっている坪内孝介さん(右)、岩井一正さん(左)】

新しく焼津市に開設される『coco下小田』を近日訪問し、地域で支える有償ボランティア「ライフサポーター」の月例会の様子など改めてご報告したいと思います。

志太榛北地区担当特派員 増田昌江